様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年５月１５日現在

機関番号：１３８０１
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2009～2011
課題番号：２１７３０４８２
研究課題名（和文）児童養護施設における心理職の活用に関する調査研究

研究課題名（英文）　A study of effective utilization of clinical psychologists in Children’s home

研究代表者
井出　智博（IDE TOMOHIRO）
静岡大学・教育学部・准教授
研究者番号：20524383

研究成果の概要（和文）：
児童養護施設（N=568），及び乳児院（N=121）における心理職の活用状況に関する全国調査をおこなった。その結果から，児童養護施設における心理職の活用に関して，①小規模施設における心理職導入の困難さ，②心理職の育成をめぐる課題，③心理職の生活の場への関与の問題，④ケアワーカーの人間関係の問題，⑤心理職活用のための有効な取り組み，について言及した。また，乳児院における心理職の活用に関して，①心理職導入をめぐる課題，②乳児院心理職に求められている役割，③生活の場への関与，④心理職活用のための有効な取り組みについて言及した。加えて，心理職の活用が進んでいる施設（Expert 施設）と活動が評価されている心理職（Master Therapist）に対するインタビュー調査をおこない，その結果から，心理職活用についてのガイドラインを作成した。

研究成果の概要（英文）：
In this study, the researcher investigated the utilization of clinical psychologist at Children’s home and Infant’s home in Japan. From the results, following points were clarified regarding the utilization of clinical psychologists at Children’s home: (1) difficulties of introducing psychologists at small facilities, (2) problems of training psychologists, (3) problems of psychologists’ participation in children’s life space, (4) problem of relationships among care-workers, and (5) effective utilization of psychologists. Similarly, following issues were examined regarding clinical psychologists at Infant’s home: (1) difficulties of introducing psychologists, (2) roles required for psychologists, (3) problems of psychologists’ participation in infants’ life space, and (4) effective utilization of psychologists. In addition, the researcher interviewed successful facilities and competent therapists that were highly evaluated by the professional community. From the research results, guidelines for utilization of clinical psychologists have been developed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：
科研費の分科・細目：社会福祉学
キーワード：児童養護施設　乳児院　心理職　活用　ガイドライン

１．研究開始当初の背景

(1)1999 年に児童養護施設に心理職が配置されてから約 10 年が経過し，児童養護施設，及び乳児院への心理職の配置が進められている。しかし，全国的な配置の状況については 2002 年の全国社会福祉協議会，2007 年の全国児童養護施設協議会による調査がおこなわれているのみであり，これらの調査では心理職の配置状況を知ることができるのみである。児童養護施設，及び乳児院における心理職の活用が進み，子どもたちに対する心理的なケアを充実させるためには，全国的な心理職の活用に関する現状，及び課題の把握と実証的な分析が必要である。

(2)児童養護施設，及び乳児院における心理職の活用に関して，施設がどのように心理職を活用するか，また，心理職が施設でどのような役割を担い，どのように活動を展開するかについての方向性はほとんど示されていない。また，心理職の活用状況は施設によって大きな差異がみられる。心理職の活用や心理職の活動内容についてのガイドラインを策定することは施設で暮らす子どもたちに対する心理的な支援を充実させるためには重要な要因となると考えられる。

２．研究の目的

(1)全国の児童養護施設，及び乳児院を対象とした郵送による質問紙調査をおこない，心理職の配置，活用状況，心理職の活動内容を把握し，施設規模や施設形態，心理職の雇用形態や活動形態についての実証的な分析をおこなうことで，現状と課題を明らかにする。

(2)ガイドラインを作成するために，「心理職の活用が進んでいる施設」と「機能していると評価される心理職」を対象とした質問紙調査をおこない，それぞれに共通する要因を抽出することによって，児童養護施設，及び，乳児院における心理職の活用，及び心理職の活動展開に関するガイドラインを作成する。

３．研究の方法

(1)2009 年 7 月に全国の児童養護施設（568 箇所），乳児院（121 箇所）の管理職，及び心理職を対象とした郵送による質問紙調査を実施した。施設管理職に対する質問紙の内容は施設のプロフィール，心理職の導入・活用状況，導入の理由，活用のための取り組み，導入・活用の問題点，心理職に対する評価などである。心理職に対する質問紙の内容は心理職のプロフィール，活動内容，心理職としての難しさ，心理職に必要だと考えられる能力，心理職としての活動に対する自己評価などである。

(2)2010 年から 2011 年にかけて，他の施設や地域の児童相談所等の関係者から「心理職の活用が進んでいる施設」，及び所属する施設や地域の施設心理職や関係機関の心理職から「機能していると評価される心理職」に対して，それぞれを心理職活用の Successful Facility（以下，SF），Competent Therapist（以下，CT）として，半構造化面接によるインタビュー調査を実施した（tab.1）。インタビュー内容は Grounded Theory Approach の手法を用いて分析をおこない，SF と CT の特徴を抽出した。また，その結果を基にして，施設が心理職を活用するための「心理職の活用に関するガイドライン」，心理職が施設で有効に機能するための「心理職の活動のガイドライン」を作成した。

tab.1　インタビュー対象

	施設（管理職）	心理職
児童養護施設	8 施設	11 施設
乳児院	6 施設	6 施設

４．研究成果

【児童養護施設編】

(1)心理職活用の現状と課題

①小規模施設における心理職導入の困難さ

児童養護施設に対する調査の回収率は 42.6%で，そのうち，82.2%の施設が心理職を導入していた。2002 年の全国社会福祉協議会による調査の 43.2%，2007 年の全国児童養護施設協議会による調査の 72.8%と比較すると，心理職を導入している施設が増加していることがわかる。しかし，心理職を導入していない施設の導入しない理由に目を向けると，予算面での難しさや適当な人材を確保することの難しさが示されている。心理職を導入する必要に迫られているが，心理職を配置する際の「被虐待児 10 名」という基準が小規模施設では足かせになっていることや人材の確保の難しさが心理職を導入する際の難しさとして残されていることが示された。

②心理職の育成をめぐる課題

加藤が 2002 年に指摘しているように，児童養護施設心理職は「若く，経験が浅い」者が多いという状況には大きな変化はなく，20 代，経験年数 3 年程度という心理職が約半数を占めている。こうした中で施設の中で心理職を活用するシステムの構築や心理職の育成，児童相談所心理職との役割分担などが，施設が心理職を活用する際の難しさとして示されていた。

③心理職の生活の場への関与の問題

心理職にとっての難しさとして指摘されたのは生活の場で子どもと関わらなければならない，ということであった。タイムスタディでは心理職の活動のうち 19.0%が生活支援にあてられており，常勤心理職では 26.6%

とさらに高い割合を占めていることが示された。心理職として雇用されていながら，生活支援に多くの時間を費やしている現状にある。

④ケアワーカーの人間関係の問題

心理職が生活の場で子どもと関わらなければならないことの他に難しさを感じていたのは，ケアワーカーの人間関係の問題である。施設での子どもたちへのケアにはチームアプローチが重要であることが示されている（増沢，1998）。しかし，心理職はその土台となるはずのケアワーカーの人間関係が悪いと感じており，職員間の人間関係を調整したり，改善したりする能力が心理職に求められていると感じている。しかし，施設側は心理職に施設内の人間関係を調整したり，改善したりすることを必ずしも求めてはいない。

⑤心理職活用のための有効な取り組み

児童養護施設心理職は，施設側が求めている以上に多くの能力を持っていなければならないと考え，オールラウンダーでなければならないと考えている傾向が示された。背景には乳幼児から青年期までの幅広い発達段階にある子どもたちを対象としなければならないこと，生活支援から心理面接まで多様な役割を担わなければならないことなどがある。こうした中で施設が心理職を活用するためには管理職が心理職の活動をマネジメントしたり，心理職がスーパーバイズや研修を受ける機会を保障したりすること，施設内に心理職を活用するための枠組み（ガイドライン等）を整備することなどが有効な方法となりえることが示された。

(2)ガイドラインについて

SF と CT に対するインタビュー調査を実施した。Grounded Theory Approach による分析の結果，児童養護施設 SF の特徴として 9 つのカテゴリーと 31 の概念，CT の特徴として 8 つのカテゴリーと 51 の概念が抽出された。これらの結果と，全国調査の結果をもとにして，施設が心理職を活用するための「心理職の活用に関するガイドライン」，心理職が施設で有効に機能するための「心理職の活動のガイドライン」を作成したが，そこから施設が心理職を活用するためのポイント，心理職が有効に機能するためのポイントを抜粋し，以下に示す。

1)施設が心理職を活用するためのポイント

①管職が心理職を活用する方針を明示する。

②心理職を導入する目的を明確化し，心理職を内包した新しい施設の支援方針を策定する

③心理職の活用方法を学んだり，心理職の考えを伝えたりするための施設内研修を設定する

④心理職だけではなく，施設内のほかの専門職の役割や位置付けを明確化する

⑤活用のシステムを構築する（コーディネーターの配置，勤務時間の設定や記録様式の整備，心理職のデスクの配置，生活場面に関与することの意味の確認，施設ごとの心理職活用のガイドラインの作成，ミーティングや日常的な“愚痴”への心理職の活用）

⑥生活の場への関与についての考えを共有する

この他に，子どもへの支援，職員への支援に活用する際の留意点などを示した。

2)心理職が有効に機能するためのポイント

①心理職としての自分を支える環境を整える（児童養護施設に精通したスーパーバイザーの確保，コミュニティの視点からのスーパーバイズ，ピア・ビジョンの確保）

②施設を見立てること，心理職としての自分を見立てること

③児童養護施設心理職としての基本的な姿勢（「棲み込む」（dwelling in）を通して施設を理解する，セラピーの型ではなくエッセンスを大切にする）

④施設内連携を促進する取り組み（守秘義務の位置付け，相補的コンサルテーション，ケアワーカーの苦労を深く理解するための挑戦，日々のちょっとした会話を小さなカンファレンスにする，子どもとケアワーカーの関係性を支援する，必要以上にケアワーカーの役割を肩代わりしない）

この他に，生活の場への関与に関すること，セラピーを実施する際の留意点を示した。

【乳児院編】

(1)心理職活用の現状と課題

①心理職導入をめぐる課題

乳児院に対する調査の回収率は 50.4%で，そのうち，44.3%が心理職を導入していた。心理職を導入していない施設では外部機関を利用しているという理由以外に，心理職配置基準である被虐待児 10 名という基準を満たさないという理由や現在の支援体制で十分である，心理職を導入するメリットがないという理由も挙げられた。心理職を導入したいが導入が進められていない施設もあれば，積極的に「心理職を導入しない」施設もあることが示された。

②乳児院心理職に求められている役割

施設が心理職に求めているのは，子どもへの個別心理面接，アセスメント，生活の場での心理支援，ケアワーカーへの助言の他に家族へのアプローチであった。家族へのアプローチ以外の活動に関して，施設側からの評価はおおむね肯定的なものであったが，家族へのアプローチに関しては「役立っていない」「どちらともいえない」という肯定的とはいえない評価が約半数を占めていた。乳児院で

は関わりの難しい保護者が増加していたり，家族復帰率が低下していたりする（平田，2007）ことが課題となっており，施設としては心理職にも家族へのアプローチで重要な役割を担うことを期待しているが，現在のところ，心理職による家族へのアプローチを効果的に評価していない現状にあることが明らかになった。

③生活の場への関与

乳児院では心理職が生活の場に関与することについて，児童養護施設ほど大きな問題として位置づけられてはいない。心理職が施設に就職した後，一定期間ケアワーカーとして研修させたという取り組みに対しても，心理職は必ずしも否定的な評価をしていない（ただし，施設によって状況に違いはある）。乳児院における心理職の活動は，単に子どもへの支援だけではなく，ケアワーカーと子どもの関係性を支援したり，子どもの治療というよりも，生活全般にわたる発達支援をおこなうために，生活の場への関与が重要な意味を持っていることが示唆されている。

④心理職活用のための有効な取り組み

乳児院心理職にはケアワーカーとの連携や家族へのアプローチが求められている，しかし「若く，経験が浅い」心理職が多いこともあり，施設側からは十分な家族へのアプローチがおこなわれていないと評価されている。家族へのアプローチには子どもへの心理的支援の知識や技術に加え，家族療法についての知識や技術も必要とされる。そうしたトレーニングを積むためには心理職がスーパーバイズや研修を受ける機会を保障したりすること，ファミリー・ソーシャル・ワーカーとの役割分担などを進めることで心理職の育成，及び活用を進める体制を整備することが必要である。

(2)ガイドラインについて

SF と CT に対するインタビュー調査を実施した。Grounded Theory Approach による分析の結果，乳児院 SF の特徴として 8 つのカテゴリーと 25 の概念，CT の特徴として 13 つのカテゴリーと 45 の概念が抽出された。これらの結果と，全国調査の結果をもとにして，施設が心理職を活用するための「心理職の活用に関するガイドライン」，心理職が施設で有効に機能するための「心理職の活動のガイドライン」を作成したが，そこから施設が心理職を活用するためのポイント，心理職が有効に機能するためのポイントを抜粋し，以下に示す。

1)施設が心理職を活用するためのポイント

①管理職が心理職を活用する方針を明示する
②心理職を導入する目的を明確化し，心理職を内包した新しい施設の支援方針を策定する
③心理職を乳児院におけるケアワーカーによる子育ての支援者と位置付け
④心理職の活用方法を学んだり，心理職の考えを伝えたりするための施設内研修を設定する
⑤心理職だけではなく，施設内の他の専門職の役割や位置付けを明確化する
⑥心理職活用のためのシステムを構築する（コーディネーターの配置，勤務時間の設定や記録様式の整備，心理職のデスクの配置，生活場面に関与することの意味や確認，施設ごとの心理職活用のガイドラインの作成，ミーティングや日常的な“愚痴”への心理職の活用）
⑦実際にケアワーカーが子どもに関わる姿を見ながら助言を求める
⑧精神疾患等，関わりが難しい保護者への関わりで心理職を活用する
⑨心理職という立場を利用した，施設全体を見渡す視点を活用する
⑩個別の関わりに活用する

2)心理職が有効に機能するためのポイント

①乳児院心理職としての自分を支える環境を整える（乳児（院）に精通したスーパーバイザーの確保，ピア・ビジョンの機会の確保）
②施設を見立てること，心理職としての自分を見立てること（施設を見立てること，心理職としての自分を見立てること）
③既存の枠組みをあてはめず，新たな活動を創造する
④施設内連携を促進する取り組み（施設内連携の深化を最優先課題と位置づける，守秘義務の位置付け，相補的コンサルテーション，ケアワーカーの苦労を深く理解するための挑戦，日々のちょっとした会話を小さなカンファレンスにする）
⑤生活の場への関与（生活の場への関与の是非を二者択一で考えない，生活支援に関与する際も，常に「心理職」としての意識を持つ，「生活の場に関与しないこと」と「生活に無関心でいること」は違う）

この他に，生活の場への関与に関すること，家族へのアプローチ，セラピーを実施する際の留意点を示した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　2 件）

① 井出智博（2012）タイムスタディによる児童養護施設心理職の活動分析，静岡大学教育学部研究報告　人文・社会・自然科学篇，第 62 号，85-93（査読無）
② 井出智博（2009）児童養護施設で“個別

面接”を始める前に考えておくべきこと－心理職が活動を展開するためのシステム作りについての試論－，九州産業大学大学院臨床心理センター臨床心理学論集，第 5 号 41-46，（査読無）

〔学会発表〕（計　3 件）

① 井出智博，坂本佳奈子（2011）乳児院における心理職の活用状況に関する調査研究　-タイムスタディを中心として-，日本心理臨床学会 第 30 回大会，平成 23 年 9 月 3 日，九州大学

② 井出智博（2010）児童養護施設心理職の活動内容についての分析-全国調査におけるタイムスタディの結果を中心として-，日本心理臨床学会第 29 回大会，平成 22 年 9 月 3 日，東北大学

③ 井出智博（2010）児童養護施設心理職に求められる能力や姿勢についての検討，日本福祉心理学会第 8 回大会，平成 22 年 7 月 18 日，筑波大学

〔その他〕

ホームページ等

・全国調査についての報告書（http://www7.ocn.ne.jp/~idtomoro/4743.html）

・ガイドライン（静岡大学（http://www.shizuoka.ac.jp/）機関リポジトリで閲覧できるよう準備を進めている）

６．研究組織

(1)研究代表者

井出　智博（IDE TOMOHIRO）
静岡大学・教育学部・准教授
研究者番号：20524383